

広報

もり 中部の森林



写真：美ヶ原のレンゲツツジ(中信森林管理署職員撮影)

私の森語り「山を愛する人材を育てる」
白鳥林工協業組合 美谷添 里恵子

各地からの便り

- ・管内各地での植樹祭行事 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、
中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局



2024/No.243

上田・佐久地域の植樹祭行事

【東信森林管理署】

五月二十五日、青木村の「青木村及び上田市共有財産組合林」において、UE森二〇二四（上田地域にぎやかな森づくり植樹の集い）が開催されました。当日は長野県上田地域振興局、青木村、当署を含む林業関係機関・団体、協定企業九社、青木村みどりの少年団、長野大学の学生など約二五〇名が参加し、二人一組となりカラマツ約四、〇〇〇本を植樹しました。参加者からは「穴を掘るのに苦労したけれど、植えた苗木が大きく育つのが楽しみ」といった声が聞かれました。

五月二十九日には北相木村「長者の森」で、第三十三回佐久地域森林祭を兼ねた第七十四



回長野県植樹祭(佐久会場)が開催されました。前日の大雨から一転して絶好の植樹日和となり、長野県知事、佐久地域の市町村長、中部森林管理局長をはじめ、北相木村みどりの少年団、職場体験として前日から来署していた佐久市立臼田中学校の生徒を含む約二三〇名が参加し、カラマツなど約一、六〇〇本を植樹しました。昨年に引き続き、当署からパワーアシストドリル「植穴名人」を三台持ち込み、コンテナ苗を効率よく植栽できる様子を実演すると、製品価格など多くの質問が職員へ寄せられました。

これに先立ち、管内では五月十日に南牧村植樹祭が八ヶ岳ふれあい公園で、五月十五日に川上村植樹祭が高登谷湖畔で開催されました。両村ともレタスなど高原野菜の産地

として知られていますが、南佐久南部森林組合長でもある川上村の由井村長の「川上村は明治時代からカラマツ苗木の産地で、現在レタス畑となっている畑も、かつてはカラマツの苗畑だった」との挨拶に、時代の移り変わりを感じました。

今後も地域との連携を図りながら森林づくり活動を進めてまいります。



カラマツを植える参加者～UE森～



臼田中学校の生徒とともに～佐久地域森林祭～



立派に育ってね～佐久地域森林祭～



記念植樹を行う森谷局長と小学生

とやま森の祭典二〇二四
「ちきゅうがみどりになるように
みんないっしょにつたつて！」

【富山森林管理署】

五月十九日、富山県魚津市の桃山運動公園において「ちきゅうがみどりになるように」をテーマにしよにてつだつて！」をテーマに「とやま森の祭典二〇二四」が開催され、約二千人が植樹や会場での催し会に参加しました。

会場周辺では、県内外の関係機関による展示・物販があり、当署からは、森林の役割や国有林をパネルで紹介するとともに、木工クラフトの体験ブースを出展し、多くの家族連れで賑わいました。体



子供たちで賑わう木工クラフトの体験ブース

式典では、富山県佐藤副知事の挨拶をはじめ、緑化活動の功績に対する表彰等が行われました。その後の来賓による記念植樹では、森谷局長が富山県産の優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植樹を行いました。

愛知県植樹祭
愛知県では、五月十八日、尾張旭市において、県等が主催する植樹祭が行われ、中部森林管理局からは、名古屋事務所、愛知森林管理事務所が参加しました。



木工クラフトに熱中する児童

験した子供たちからは「楽しかった」「おもしろかった」との声が聞かれました。



平成18年5月に行われた第57回全国植樹祭記念式典の様子（植樹祭記念式典会場設置の看板写真）。後方にお手植えされた木が見えます。

中部森林管理局管内で行われた
全国植樹祭のその後
五月は各地で植樹行事が行われましたが、五月二十六日には岡山県で、天皇后陛下の御臨席のもと、「晴れの国 光で育つ 緑の心」をテーマとして第七十四回全国植樹祭が行われました。
中部森林管理局管内では、平成十八年に岐阜県下呂市、平成二十八年に長野県長野市、平成二十九年に富山県魚津市、令和元年に愛知県尾張旭市・名古屋市内において、各県二回目の全国植樹祭が行われています。このうち、当時の両陛下のお手植えから十八年が経過した、岐阜県下呂市の樹木の様子を一〇ページで紹介しています。

木曾郡植樹祭

【南木曾支署】

五月十七日、令和六年度木曾郡植樹祭が、第七十四回長野県植樹祭の木曾会場での行事を兼ねる形で、南木曾町読書の柿其国有林において開催されました。当日は郡内の町村長・地元議会、官公署、



植樹祭の開会式に臨む参加者

林業関係者など約一二〇名が参加し、二人一組となり約四〇〇本のスギのコンテナ苗を植えました。植樹作業では、植えた木がニホンジカなどの野生鳥獣に食べられる被害にあわないように、苗木を一本ずつ守るための保護材の設置も併せて行われました。「みどりの少年団」として地元南木曾小学校五年生二十九名の参加もあり、児童からは、「鍬で土を掘ることは大変だったけど、大きく育つてきれいな森になったらうれしい」といった感想や「この植えた木はどのくらいで伐るのかな？」など



2人一組で苗木を植えるみどりの少年団

の質問がありました。現地に直径五〇センチほどの切株があったので「この根っこ位の太さになったらかな」と答えると、苗木と切株の太さの差に驚いた様子でした。閉会式では、みどりの少年団から、森林や木の文化を学び、安心して暮らせるみどり豊かな環境を守り育てる「みどりの宣言」が行われ、植樹祭を終えました。



記念標柱を建立する関係者

今回の植樹祭を含め、地元自治体や関係機関との協力体制は重要であり、今後も森林に関わる様々な場面での連携をさらに進めてまいります。



閉会式で「みどりの宣言」を読み上げる様子

【北信森林管理署】
戸隠森林植物園の開園準備
「多くの方々の来園に備えて」



【北信森林管理署】

四月二十二日、長野市の国有林に設定されている戸隠森林植物園において、四月二十七日の開園に向けた準備作業を北信森林管理署の職員ほか、関係機関・団体など総勢約九十名で行いました。

本作業は、「野鳥の宝庫で地域の重要な観光資源である自然豊かな植物園をマンパワーによる手作りの保全管理活動により守っていく」との趣旨のもと、令和四年度から実施しています。同植物園の管理運営に携わる多くの関係者が組織の垣根を越えて一堂に会し、さらに、活動の趣旨に賛同していただいた県内外の企業や団体もボランティアとして参加しました。

当日は天候にも恵まれ、また、多くの報道機関が取材をする中、参加者の皆さんは一齐に広い園内の各所に散らばり、遊歩道や橋梁

の補修・整備、ウッドチップの敷設やグリーンロープの設置、看板標識類の設置など、様々な作業に従事しました。

手作り感が漂う木橋や、安全で歩きやすくなった遊歩道など、園内は新たな衣装を纏っていくように整備され、無事、開園の準備が整いました。参加者の皆さんは心地よい疲労感と達成感の中、満面の笑みを浮かべていました。

今回の植物園の整備のために資材やウッドチップを提供していただいた長野国有林森林整備協会北信支部、オフィシャルサポーターの(一財)日本森林林業振興会長野支部、資材運搬にご協力いただいた信州林業株式会社、そしてボランティアとしてご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

今後多くの観光客の方々に植物園や戸隠でのひとときを楽しく過ごしていただけることを願っています。



ウッドチップ敷設作業



遊歩道の補修作業

参加機関・団体等一覧

関係機関及び団体	ボランティア参加
環境省	ベルトラ株式会社
長野県 長野地域振興局	長野国有林森林整備協会 北信支部
長野市観光振興課 北部産業振興事務所	ドコモCS長野支店
一般社団法人 戸隠観光協会	北信五岳トレイルランニング グレース実行委員会



開園準備作業に参加いただいた皆さん

講義では、初めに紙芝居を用いて森林のはたらきを説明し、その森林をどう守るのか、保安林や森林管理署の役割などをパンフレットを活用して



紙芝居「森林からの贈り物」



森林ビンゴでの探索の様子

【南信森林管理署】
五月十一日、岡谷市唐笠平キャンプ場にて、岡谷市主催の「第一回岡谷こどもエコクラブ」に、当署から六名が参加しました。
岡谷こどもエコクラブは、市内の六つの小学校を対象に、環境に興味のある児童を募集し、年間を通して様々な講義を行っていきます。今回は「森を守る仕事」を取り上げたことから当署へ講師依頼があったもので、一年生から六年生の二十三名とその保護者が受講しました。

岡谷市主催「第一回岡谷こどもエコクラブ」に参加



理解を深めてもらいました。その後、周辺の森林を地面から木の上まで注意深く観察しながら、松ぼっくりや虫の卵、切り株等を見つけてる森林ビンゴゲームを行いました。このほか、木の種類や高さ、太さなどを当てるクイズ、調査に使う道具やカラマツ、ヒノキの特徴などについて紹介を行いました。
児童たちからは「森を歩くのが楽しかったから、また来たい」などの感想が出され、最後に、市の職員が煮出した「クロモジ茶」を味わい閉講となりました。
今回の活動に参加した児童たちは、きっと森林の大切さを実感したことでしょう。

【富山森林管理署】
五月十八日、富山市大沢野国有林において、「社会貢献の森」づくりの協定を締結している NPO 法人「きんたろう倶楽部」と連携し、侵入している竹の除去作業を行いました。
同国有林は、風害を防止する防風保安林に指定されており、平成二十二年から活動の一環で、森林の機能維持対策として森林整備活動を行っています。
当日は、晴天の中、倶楽部の会員六名と当署職員四名で防風林に侵入している竹をノコギリで切り倒し、チップパーで粉砕して林内に戻す作業に汗を流しました。
竹の除去は、昨年、富山県内で多発したクマの出没に対する防止効果も期待されるため、引き続き取り組んでいきます。

風とせせらぎの森
きんたろう倶楽部の活動



除去した竹のチップパーによる粉砕



竹の除去作業中

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【南木曾支署与川森林事務所】

森林官 山田 正孝

与川森林事務所は、長野県南木曾町に所在し、南木曾国有林約三、五〇〇ヘクタを管轄しています。

南木曾国有林は、南木曾町の北東に位置し、木曾山脈（中央アルプス）南部の摺古木山（二、一六九メートル）から、その西の方角にある南木曾岳（一、六七七メートル）に挟まれた地域です。



保護林内に育つ次の世代のヒノキ



野生動物に幹の皮を剥がされた木

南木曾岳山頂周辺は、木曾ヒノキなどの天然林が生育するほか、一部には、木曾谷では希少なブナを中心とする落葉広葉樹林も見られることから、「南木曾岳生物群集保護林」に指定し、保護と管理に努めています。

当事務所には森林官一名（筆者）が配置されており、間伐など発注業務の監督をはじめ、シカなどに

よる被害状況の確認、豪雨後の林道点検・災害調査など、幅広い業務に従事しています。

また、広大な面積を管轄しているので、中にはシカによる食害で植栽した苗木が消失したり、豪雨等により土砂崩れが生じたりしている箇所があります。このような場合、そのままにして大丈夫なのか、再び植栽するのか、土砂崩れが広がらないような工事をする必要があるのかなど、森林の経済的価値も考慮しながら、今後の手入れや管理の方法を検討することになります。自然を相手にした作業になるので、結果が出るまで長い時間がかかりますが、それも夢があつて楽しいものです。

先ほど、シカによる苗木の食害に触れましたが、このほかにもノウサギによる食害やクマにより幹の皮を剥がされる被害が発生しています。繰り返し被害を受けると、枯れてしまうため、シカ等が嫌う薬剤を穂先に散布したり、樹皮を剥ぎにくくするために幹に専用のテープを巻き付ける対策にも取り組んでいます。



間伐作業を行う業者へ説明する筆者

■未来の担い手へのメッセージ
森林官の経験年数は通算三年であり、この間にあらためて感じたのは、現地へ行って森林を直接観察して状況を読み取ることが大切であるということです。これらも、より良い森林づくりにつながられるよう森林から教わるつもりで、業務に励みたいと思っています。

この職場は、貴方の進路の選択肢に加わったでしょうか。



シリーズ

「私の森語り」 もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「山を愛する人材を育てる」



白鳥林工協業組合
代表理事
みやぞえ
美谷添 里恵子

■自己紹介

平成二十一年に先代の理事長が若くして亡くなり、現場の手伝いしか経験のない私が会社を任せられることになりました。何とか会社を繋いで存続させたい、と気が付けば十五年が経っていました。

地域の産業として、森林整備、素材生産、製材、木材加工と山と共に生活をしています。森林を育てて生かす仕事「伐って、使って、植えて、育てる」全ての工程に携わる仕事をしています。

■活動内容

我が社は、平成七年に県下で初めて高性能林業機械を導入して「車両系作業システム」を取り入れました。しかし、岐阜県は急峻で尾根や谷が入り組んだ地形が多いため、最近では「架線系の作業システム」の必要性を痛感しています。架線集材には特殊な技術が必要なため、若い技術者が日々研修



架線集材技術習得のための研修

を重ねて技術を習得するよう努力しています。今後は、必ず架線による集材が必要になってくると思っています。

■メッセージ

森林技術者の育成、確保は長年の重要課題ですが、平成十五年度から始まった、国の「緑の雇用」事業にはいち早く手を挙げて、第一期生から現在まで多くの研修生を受け入れ、現在働いている十一人の林業従事者は全員が緑の雇用の研修生です。他にも、毎年岐阜県森林文化アカデミーの学生さんや地元高校からインターンシップを受け入れ、多くの学生に林業を体験し、将来地元の山を守ってくれる人材を育てています。また、夏



新しい生命の植え付け

休みには、近くの子供たちに製材で生じた端材を無料で提供し、木工作品を作ってもらっています。美しい自然に囲まれている私たちの故郷、この素晴らしい自然を守り、地元で生きぬき、林業を次世代に繋いでいくことを目指し、今後も山を愛する人材を育てていきたいと思っています。



インターンシップの受け入れ

■連絡先

岐阜県郡上市白鳥町大島
字向野一五四六
白鳥林工協業組合

<http://www.shiratori-rinko.or.jp>



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第38回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「裏木曾」その二

江戸時代の出ノ小路大材伐出

裏木曾では室町時代の頃から大材を伐出した記録がありますが、歴史的にも特に重要な事例として一八三八年（天保九年）、出ノ小路（現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林）での大材伐出が挙げられます。



出ノ小路大材伐出時の陣屋（役人の小屋）の様子（『付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解』より）



昭和16年、出ノ小路事業所の様子（現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林）

これは大火で焼失した江戸城西の丸の再建用材を幕府が求めたもので、領内の森林資源の管理に苦勞していた尾張藩にも莫大な献木と献金が強いられることとなりました。幕府と尾張藩の役人が豊かな山林として知られる出ノ小路に大勢派遣され、住民も動員して行うことになった大事業は、この地で資源面でも感情面でも大きな問題を起こし、後に木曾山林の総鎮守となる護山神社の建立にも繋がることになります。

大規模な伐出事業の様子は絵図としても残され、人力と斜面と水の流れを利用した当時の伐木運材の風景を垣間見ることが出来ます。幾つもの関連資料が作られています。これらで描かれている木のサイズには大変大きなものもあり、実際よりもデフォルメされているのかどうかは意見が分かれるところです。

「上絵図」出ノ小路大材伐出の絵図を元に明治前期に作られたリトグラフ（石版画）



「下写真」昭和二十年代頃の伐採の様子（現在の東濃森林管理署付知裏木曾国有林）

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。



イヌワシの生息にふさわしい森

米子希少個体群保護林

設定目的

希少種であるイヌワシの生息適地となる自然環境が残されていることから、その生息適地である森林の保護・管理をしています。

地況・林況

四阿山(二一三三三ト)や奇妙山(一、六二九ト)等に囲まれ、不動滝や権現滝など落差約八〇トに及ぶ雄大な瀑布の上部に位置しています。

カラマツ、ウラジロモミ、スギ等の針葉樹やミズナラ、カンバ等の広葉樹から構成される天然林が分布しています。

所在地
長野県 須坂市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。



第57回全国植樹祭記念式典会場の現在
(岐阜県下呂市萩原町四美)

右端の建物に御座所(=両陛下が着座された席)が設けられた
建物の左側には、成長したウスズミザクラ、ホオノキなどが見える

平成十八年に岐阜県で開催された第五十七回全国植樹祭においてお手植えされたのは、ウスズミザクラ、イチイ、ホオノキ、ネムノキ、トチノキ、キハダの六本です。樹木の周囲は木柵とネットに囲まれているため、直接触れることはできませんが、いずれの樹も枝を大きく広げて順調に成長しており、一番伸びているホオノキは、高さが一〇メートルを超えていました。

十八年前の全国植樹祭にて
お手植えの樹は今



左からウスズミザクラ、ホオノキ、イチイ(天皇陛下お手植え)
下段左から、トチノキ、ネムノキ、キハダ(皇后陛下お手植え)



全国植樹祭が実施された場所は、「皇樹の杜」と命名されました。機会があれば、足を運んでみてはいかがでしょう。



編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

4月下旬、奈良文化財研究所が、1300年近く前の奈良時代に創建された東大寺東塔(七重塔)の高さは33丈(97m)ではなく23丈(68m)だったと記者発表しました。「それがどうした」と言われそうですが、23丈だったとしても現存最大の東寺五重塔(55m)より高いのです。最上部の相輪と呼ばれる飾りが26m、木造部分は42m、塔の中央にある心柱の直径は上部の相輪部分で1.3m以上と推定。その当時、周辺には大木の育っている山々があり、伐採や搬出、材木を用途別に加工するための道具と技によって塔を組み上げることを可能にする非常に能力の高い職人集団が存在していたわけです。

建築を可能にした権力に関してはさておき、はるか昔に15階建てビルに相当する高さまで人力のみで足場を組んで作業する姿は尊敬に値します。こわくて自分にはできそうもないです(-;-)

東大寺東塔の復元研究の成果報告書は奈良文化財研究所のHPに無料公開されています。68mもの高さにより生ずる自らの重さに耐えるか、荷重解析も行われています。興味のある方は以下のコードからどうぞ!



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

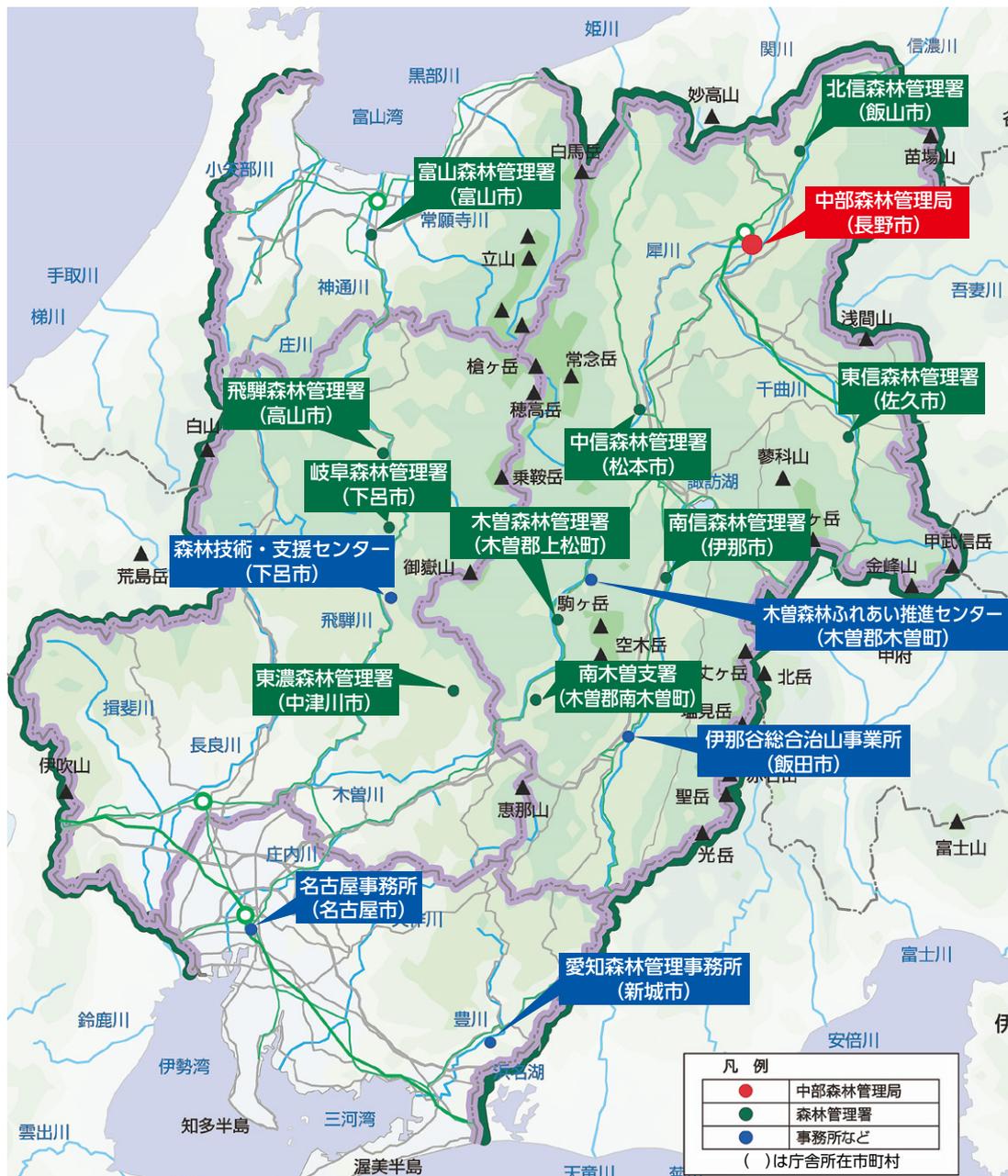


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。